# 令和８年度入学式　学長式辞

愛媛大学長　仁科　弘重

４月は、寒暖差が大きく、体調管理が難しいですが、桜の花や木々の新緑を愛でながら、期待感と高揚感をもって新たな１年を始められる時季です。

本日、愛媛大学の学部に１９２１名の皆さんを、大学院に５６０名の皆さんをお迎えすることができました。学部、大学院へのご入学、おめでとうございます。愛媛大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。

また、保護者の皆様にも、お子様のご入学をお慶び申し上げます。

本日は、ご来賓として、愛媛県の菅副知事、愛媛大学校友会の髙橋会長、愛媛大学経営協議会の委員の方々にご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

始めに、大学の構成員となられた皆さんには、最近の大学はどのようなことを行っているのかを知ってもらうことにしたいと思います。

皆さんは、大学は、基本的に、教育と研究を行っていると理解していると思いますが、実際は、教育、研究以外に、実に多くのことを行っています。法律的には、「教育基本法」において、「大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と定義されました。したがって、大学には「社会への貢献」を行うことも求められています。

そして、皆さんが入学された愛媛大学は、文系から理系まで、７つの学部と、大学院として６つの研究科、２つの学環を擁し、１万人近い学生が学ぶ、四国最大の総合大学です。学部の学生数は、全国に８５ある国立大学の中で１８番目です。

愛媛大学のことを少し詳しく述べますと、研究面では、本学の３つの先端研究センターが、文部科学省から「全国共同利用・共同研究拠点」に認定されています。また、教育面では、本学の強みの１つである教育改革で、本学の教育企画室が、教育関係の全国共同利用拠点として認定されています。さらに、地域貢献では、愛媛県内全２０

市町と連携協定を締結しており、また、地域の産業を支援するためのセンターや地域のステークホルダーと協働するためのセンターを、県内各地に設置しています。

そして、これらの機能をより発展させるべく、愛媛大学は、「目指すべき方向性や理想の姿」、すなわち、「ビジョン」を、令和７年４月に見直しました。

少し長いですが、

愛媛大学は、「知」の尊重及びダイバーシティとサステナビリティの実現を基本理念とし、価値観が大きく変容する中期的未来における社会の在り方を探求しつつ、地方国立大学として、人材育成力、卓越研究・イノベーション創出力、地域協働力、国際連携力を向上させ、社会にインパクトを及ぼし続ける大学を目指す。具体的には、文系から理系まで幅の広い学術領域を基礎とし、それぞれの学術領域での専門力、柔軟な発想に繋がる教養力、課題に取り組む実践力を有する次世代人材を育成し、イノベーションの創出にも繋がる卓越した研究を展開する。加えて、デジタル人材の育成、地方創生・地域産業活性化・地域文化振興を目的としたステークホルダーとの協働、学ぶ意欲を持ったさまざまな世代への支援、地域医療や健康社会への貢献、留学生の受入れや学生の海外派遣・国際共同研究などを推進する。

としました。

このビジョンは多くの内容を含んでいますが、それは、本学が、多様な学術領域に立脚した総合大学だからです。

皆さんは、本学の学部、研究科、学環のいずれかに入学され、その学術領域の専門知識と技術を修得することが基本ですが、本学が多種多様な活動を展開していることを考え、これらの活動にも参加し、皆さんの対応力の幅を広げてほしいと考えます。

いきなり先端的研究活動に参加するのは難しいと思いますが、「地方創生や地域文化振興を目的としたステークホルダーとの協働」「留学生との交流や海外研修への参加」は、十分に可能と思います。

また、皆さんも高校時代に取り組んだかもしれませんが、ＳＤＧｓに関しても、ＳＤＧｓ推進室を設置しており、また、公認学生団体として「愛媛大学ＳＤＧｓ学生推進室『だいだい』」を結成しています。共通教育科目として「Ｂｅｙｏｎｄ　ＳＤＧ

ｓ」も開講しています。

さらに、アントレプレナーシップの育成にもつながる「えひめ学生起業塾」があります。アントレプレナーシップとは、第一義的には「起業家精神」と訳されますが、私たちは皆さんに「起業して欲しい」と言っている訳ではありません。むしろ、アントレプレナーシップのもう一段深い意味「新しい価値を生み出すための創造性や革新性に基づいた行動」ができる人に成長するための考え方を身に付けてほしいと考えています。魚を求めて最初に海に飛び込む１羽のペンギンは「ファーストペンギン」と呼ばれますが、これは、アントレプレナーシップにも通じるものといえます。

「えひめ学生起業塾」は２０２０年に設置され、現在は、愛媛県内の国公私立大学・大学院に在学する学生を塾生として受け入れており、約４０名が活動しています。また、これとは別に、より気軽に参加できるコミュニティ「アントレカフェ」もあり、約２００名の学生が参加しています。また、共通教育科目として、「アントレプレナーシップ入門」を開講していますし、本年度からは内容を拡充します。

私たちの世代は、「大学を卒業して、どこかの会社に入り、その会社で定年まで働く」という、いわゆる「終身雇用」が基本でした。

しかし、日本人の寿命が延びたことと、社会の変化や社会に必要とされる企業の変遷が速くなったことによって、皆さんの時代は、「１つの仕事や会社で一生を終わる」時代ではなく、「途中で、仕事や会社を変える」または「複数の仕事を持つ」ことが求められています。

この言い方は、３年くらい前までは正しかったと思います。

しかし、ここ数年で、ＡＩが急速に進歩し、ＡＩを組み込んだシステムや人型ロボットが、私たちの社会や仕事のあり方を大きく変えていくことは確実で、これまで人間が担ってきた仕事の一部を、ＡＩが補完したり、代替したりする場面も増えていくでしょう。

昨年、経済産業省が取り纏めた「２０４０年の就業構造推計」では、職種ごとの労働需給の予測が示され、「数百万人規模で、事務職では余剰が生じる一方で、ＡＩやロボットを活用できる人材が不足する」とされました。これは、仕事そのものが突然

無くなるというよりも、私たち人間に求められる能力や役割が変わっていくことを意味しています。

一方、わが国は、「失われた３０年」と言われるように、技術開発力、国際的産業競争力が大幅に落ちており、人口１人あたりのＧＤＰ、国内総生産は、世界で４０位くらいです。

人口減少も進んでおり、大体１世代先になると、生まれる人の数が半分になるようなペースです。

さらに、現在の中東情勢で再確認させられたように、わが国は、国の活動に必要な各種資源のほとんどを海外に依存しており、わが国にある資源は太陽エネルギーと水くらいです。そして、あとは、国民が有する知性に基づく資源、要するに、人的資源です。

今後、わが国は、これまでの常識や価値観、社会のシステムを捨て去り、新たな社会システムを構築する必要があります。

先ほど「アントレプレナーシップ」、すなわち、「新しい価値を生み出すための創造性や革新性を基にした行動」に触れましたが、これこそが、皆さんの世代に求められることだと思います。「昨年こうだったから、今年も、・・・」はある意味で「思考停止」であり、皆さんは「昨年こうだったから、『今年は』、・・」と考え、新たなことに取り組む発想や習慣を身に付けて欲しいと思います。

社会の急速な変化によって、求められる知識や技術、考え方も大きく変わります。したがって、皆さんは、「一生、学び直しを続ける」ことが求められる世代です。愛媛大学在学中に、「新たなことを学び続ける気持ちと習慣」を、是非とも身に付けてほしいと思います。

最後に、愛媛大学は、皆さんひとり一人の挑戦を全力で支えるため、さまざまな制度や取組みを用意しています。これらを活用して、愛媛大学での学びや学生生活を充実したものとされることを期待し、また、本日ここにいらっしゃる皆さんの中から、何人かの「ファーストペンギン」が生まれることを期待させていただき、私からの式辞といたします。

本日は、ご入学、おめでとうございます。